

学校教育目標	『自ら伸びる東野っ子』 ～やさしく、かしこく、たくましく～	経営理念 ミッション・ビジョン	確かな学力と豊かな心をはぐみ、たくましく生きる子どもを育成する。 ・学ぶ意欲があり活力ある学校 ・元氣よく挨拶・返事ができる学校 ・地域に信頼される学校
--------	----------------------------------	--------------------	---

	評価計画				自己評価				学校関係者評価	改善方策	
	中期経営計画	短期経営計画	目標達成のための方策	評価項目・指標	目標値	達成値	達成度	評価	結果と課題の分析	コメント	改善方策
確かな学力	基礎・基本の定着の確実な定着を図る。 ・基礎・基本の定着 ・表現力・思考力の育成	◇指導法を工夫し基礎的基本的な学力を定着させる。  ◇『話す・聞く・読む・書く』活動を通して言葉の力を高め。  ◇読書活動の積極的な推進を図る。	○国語科・算数科の基礎学力をつける。	国語科・算数科の単元テスト80%以上の児童の割合(%) 学力調査の期待正答率を100%として比較する	80	100	105 104 101 100	A A A A	・学校全体としては、目標を達成しているが、学年間で差がある。  ・活用する問題に課題がある。教のしくみの理解に課題がある。	・単元テストの平均点は、目標を上回ってて取組みの成果が見られる。全体での平均点だけでなく、学級や個人視点もあてしかり学力をつけてほしい。  ・子どもの発言力を高めるには、きめ細かく指導する必要がある。まず子どもに説明させる方法を教える必要がある。そして、教師が発問して直ぐに説明するのでなく、子どもの発言をもっと待つことも大切である。以前と比べてだいぶ待てるようになってきている。また、子どもの発言に対して子ども同士が質問することも教えていく必要がある。	・漢字と言葉の学習を繰り返す。基礎計算を習熟させ、算数的活動を通して、相互に説明させ思考力、表現力を育成する。 ・授業の中で活用力を高める問題をしていく。 低学年からいろいろなメモリの数直線を読解学習を継続する。
			○根拠を挙げて説明する力を付ける。	根拠を挙げてははっきりと説明できる児童の教師評価の割合(%) 1年間に説明文の学習を生かした文章を書く回数	80	87.8	109	A	・この授業でも、根拠をもとに発表することを求めることにより、根拠を挙げて意見を述べる児童が増えた。評価の観点がいまいであったため評価規準を明確にする必要がある。 ・書く活動と読解活動を関連させることにより、ポイントが明確になった。	・子どもの発言力を高めるには、きめ細かく指導する必要がある。まず子どもに説明させる方法を教える必要がある。そして、教師が発問して直ぐに説明するのでなく、子どもの発言をもっと待つことも大切である。以前と比べてだいぶ待てるようになってきている。また、子どもの発言に対して子ども同士が質問することも教えていく必要がある。	・評価の観点を明確にし、客観的な評価ができるようにする。 ・教材文の論理構造を生かして文章が書けるよう指導する
			○個にあった目標設定、推薦図書を読む等、読書活動を工夫する。	1ヶ月の読書の冊数 低・中 50頁以上の本一人15冊 高 100頁以上の本 個人目標達成率	100	92.4	92.4	B	・3学期から個人目標にし、読みたい本を積極的に読むことができた。	・児童がどのような本を読んでいるか、チェックし、いっしょに目標を設定して取り組ませる。	
豊かな心	心豊かな人間性を培う教育の推進	◇豊かな心を育む体験活動を充実させ、自己肯定感・達成感を高める。 ◇生活指導を継続、充実させる	○相手の気持ちを考えて行動する児童を育てる。	「ありがとう・ごめんなさい」が言える児童の割合(%)	80	79	98	B	・卒業・進級を控えて相手の気持ちを考えて行動する児童が増えた。	・「ありがとう」「ごめんなさい」を別々に評価し、「ごめんなさい」と言える子どもも増えている。 ・あいさつはとでも大切で、家庭からできるようにさせていくとよい。あいさつをする方が、気持ちよいかっこいいという意識をもたせるようにする。	・「ありがとう・ごめんなさい」が必要な対応がある。
			○気持ちのよい挨拶を励行する。	教師による実態調査における肯定的評価の割合(%)	90	93.1	103	A	・人から挨拶をされたら返すことができる児童が93.1%である。自分から進んで挨拶ができる児童は43.8%で、中間評価より、30%増加している。	・児童の人間関係作りにつとめ、人との関わり方のスキルを学ばせる。それによってと関わっていくとする意識をもたせる。引き続き学級指導、全校での指導徹底を充実させる。	
健やかな体	基本的な生活習慣の確立と健康・体力づくりの推進	◇望ましい生活習慣の定着をめざす。  ◇基礎的運動能力の向上を図る。 ◇健康な体づくりを進める。	○睡眠時間を十分とることを習慣化させる。	児童の意識調査における肯定評価の割合(%)	80	65	81.2	B	・卒業・進級を控えて相手の気持ちを考えて行動する児童が増えた。	・各月生活チェック週間を設けて丁寧に取り組んで、大変よい。生活のリズムをつくることは、とても大切なことである。テレビの視聴時間もよくわかった。ゲームは時間を決めてやっている。1日の中で、親子でどのくらい一緒に過ごしているのだろうか。また教えてほしい。	・睡眠時間を十分取ることの必要を伝えながら、具体的な協力と家庭への連携や啓蒙の回数を増やしていく。また、学校での児童の生活の様子や家庭でのテレビを見る時間などの実態と照らし合わせながら、個への指導をしていく。
			○休憩時間に体力づくりコースを設定し取り組ませる。	児童の意識調査における肯定評価の割合(%)	90	84	93.3	B	・空振りでは、できる児童が増えた。児童同士の声かけをするなどして、これまでできなかった児童ができるようになった学年もある。	・体力づくり・食育の取り組みは、継続してほしい。体力が専攻のは、体を使った手紙、等作業が少ないからだろう。しっかり体を動かせる活動を仕組んでいくとよい。	
			○児童への食育指導を計画し実施する。	年間実施回数	11	15	136.3	A	・計画以上に実施することができた。ランチルームでの赤黄緑の食材がおいしく挑戦することで、食への関心意欲が高まった。	・継続してほしい。継続してほしい。体力が専攻のは、体を使った手紙、等作業が少ないからだろう。しっかり体を動かせる活動を仕組んでいくとよい。	
信頼される学校	地域に開かれ、信頼される学校づくりの推進	◇学校情報を積極的に家庭・地域に発信する。  ◇地域・保護者に信頼される学校づくりを進める。	○各種通信(学校・学級・保健)を年間35回以上発行する。	年間の発行回数 35回	100	89	89	B	・通信は、担任の思いを述べることで大切である。保護者へ向けてこうしたいという思いを伝え、しっかり協力を求めることよい。	・通信は、担任の思いを述べることで大切である。保護者へ向けてこうしたいという思いを伝え、しっかり協力を求めることよい。	・学校情報を積極的に家庭・地域へ発信できるように回数・内容を確認しながら取り組む。 ・保護者アンケートで課題のある漢字・計算力をつけるためドリルタイムや家庭学習を中心と取り組みを進めていく。また、言葉遊びや読書を通して、生徒指導部と連携しながら取り組んでいく。
			○保護者アンケートの前年度80%以下の項目の改善を図る。	保護者アンケートの肯定評価の前年度比の増加ポイント	10	0.8	8	D	・前年度より、漢字力5%読書7%計算力1%学習習慣2%と肯定評価の割合が増加している。しかし、あいさつ言葉遊びについては課題がある。	・保護者アンケートの意見欄に保護者の思いや意見が出るのはよいことである。学校と保護者のよい関係が保たれている。職員は意欲がちなので、もっと保護者に自信をもって対応してほしい。	
研修	教職員の指導力の向上を図り、教育の質を高める。	◇研究会や研修会に積極的に参加し、指導力を向上させる。	○センター研修・島外研究会に参加する。	年間参加回数 一人2回以上	100	100	100	A	・全員が目標を達成している。目標を上回って研修している。	・研修報告は、目標を達成しており、今後も学校独自に進めてほしい。	・研修報告をする時間を計画的に設定していく。
			○研修報告をする。(口頭説明及び報告書 2回)	年間報告回数 一人2回以上	100	100	100	A	・全員が2回研修報告をして指導力向上に努めた。		

本年度の重点目標については ◎印で示す。

【自己評価 評価】

A: 100 ≤ (目標達成)

B: 80 ≤ (ほぼ達成) &lt; 100

C: 60 ≤ (もう少し) &lt; 80

D: (できていない) &lt; 60

学校教育目標	『自ら伸びる東野っ子』 ～やさしく、かしこく、たくましく～	経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】地域「東野」との協働の下、自立心をはぐむ子どもの育成に資する。 【ビジョン】『知・徳・体』の基礎・基本の定着を徹底させ、やさしく、かしこく、たくましい子どもが育ち、地域から信頼される学校を目指す。
--------	----------------------------------	--------------------	--

	評価計画				自己評価				学校関係者評価	改善方策	
	中期経営計画	短期経営計画	目標達成のための方策	評価項目・指標	目標値	達成値	達成度	評価	結果と課題の分析	コメント	改善方策
確かな学力	思考力・表現力の育成を図る。	◎「読むこと」を「書くこと」に活かし、論理的に考える力を身に付ける。	◎説明的文章における「読むこと」を「書くこと」に活かす指導の工夫を行う。	根拠を挙げてはつきりと説明できる児童の教師評価の割合(%)	90						
	基礎・基本の確実な定着を図る。	◎国語科・算数科の基礎学力の定着を図る。	◎単元ごと、学期末に定着度テストを行う。 ◎ドリルタイム等の時間を活用して、漢字や計算の定着を図る。	単元テストで80%以上の児童の割合(%) 学力調査の期待正答率を100%として比較する。	85 100						
		○読書活動の積極的な推進を図る。	○読書カードの活用により、読書量を増やし読書の幅を広げる取組みを進める。	1ヶ月の読書の冊数 低・中 50頁以上の本 高 100頁以上の本 (個人目標達成率)	95						
豊かな心	心豊かな人間性を培う。	◎豊かな心を育む体験活動を充実させる。  ○生活指導を継続 充実させる。 ・気持ちのよいあいさつや返事の励行 ・忘れ物ゼロをめざす	◎道徳、生活や総合的な学習の時間等で、全学年地域人材を活用し、地域に誇りを抱くことができるような体験活動を行う。  ○生活がんばり表の活用や朝会等で児童の肯定評価を行い、意欲をもたせる取組みを進める。	体験活動後の感想に地域の人への思いを記述する児童の割合	80						
				児童による自己評価、教師による実態調査における肯定的評価の割合(%)	95						
健やかな体	基本的な生活習慣の確立と健康・体力づくりを推進する。	◎望ましい生活習慣の定着をめざす。 ◇基礎的運動能力の向上を図る。  ◇健康な体づくりを進める。	○睡眠時間を十分とることを習慣化させる。 ○新体力テストで課題のある種目について、克服に向けて体育の時間や休憩時間に取り組ませる。 ◎食に関する指導を年間指導計画に基づき実施する。	児童の意識調査における肯定評価の割合(%)	70						
				児童の意識調査における肯定評価の割合(%)	85						
				各学年1回以上	100						
信頼される学校	地域に開かれ、信頼される学校づくりを推進する。	○学校情報を積極的に家庭・地域に発信する。	○各種通信(学校便り・学級便り・保健便り)を積極的に発信する。	年間の発行回数 35回	100						

本年度の重点目標については ◎印で示す。

【自己評価 評価】

A: 100 ≤ (目標達成)

B: 80 ≤ (ほぼ達成) &lt; 100

C: 60 ≤ (もう少し) &lt; 80

D: (できていない) &lt; 60